

[芳賀町]

伝統の無形文化財といちご・梨などの果樹栽培、新旧両面を併せ持つ町

個性豊かな県内各市町の姿を紹介していくこのページ。今回は、芳賀町について紹介します。

町の情報発信の拠点でもある道の駅はが

芳賀町は、豊かな田園地帯での米作といちご・梨などの果樹栽培で知られる、自然豊かな町です。古くからの人の営みの跡が残る地域でもあり、町内では各所に古墳や古社・古刹などの有形文化財が残されてきました。

さらに町は、神楽などの伝統芸能や祭りが無形文化財としてしっかりと継承されている点も大きな特徴です。奉納神楽である太々神楽は、稲毛田太々神楽（八雲神社）・星宮神社付属太々神楽・西水沼天満宮太々神楽が、町内3神社に伝承されており、神社や氏子の方々、地元の保存会の努力によって今も毎年、多くの人を集めて披露されます。

また城興寺の境内で8月23日・24日に開催される延生の夜祭りは、関東三大祭りとして知られます。もともとは江戸時代中期、日の出ご帳を参拝するために始まった祭りで、地蔵盆の8月24日の日の出を迎えるため、眠気覚ましに前夜から夜を徹して盆踊りやのど自慢・踊り自慢を行うようになったという、ユニークな祭りです。

現在の芳賀町は、こうした文化的伝統の上に果樹栽培や工業団地の開発などが進み、バランスのとれた発展を遂げています。

News

Haga グルミネーションフェス 2016

グルメと音楽とイルミネーションの祭典として、2013年より毎年12月に開催されているイベントです。年々充実し、2016年は昼の部で野外音楽フェスやクラシックカーの展示が、夜は地域最大のイルミネーションで盛り上がりしました。



甘く大粒な「いちご」が名産です

いちご狩りでしか味わえない、旬の味を楽しみに多くの人が詰めかけます

栃木県が生産量日本一を誇り、芳賀町を代表する産品でもあるのが、いちご。芳賀町では、周辺5市町（真岡市・益子町・茂木町・市貝町・芳賀町）により「いい芳賀いちご夢街道」としていちごを中心にさまざまな地域資源を結びつけ、国道294号線・県道宇都宮茂木線をメイン街道としてPRするキャンペーンを行っています。

1月、町内の観光いちご園は最盛期。ハウスの中は一足早い春を迎え、いちごの白い花の間をミツバチが忙しく飛び交います。そして緑の葉の間には、真っ赤ないちごが。町のいちごは全国へ出荷されますが、「とちひめ」（糖度が高い反面、柔らかいため長距離輸送が困難）などの品種の場合、完全の味を楽しみなければ、いちご狩りが一番です。ぜひ、お出かけください。



いちごを始めとする芳賀町の特産品を購入・賞味でき、いちご狩りや温泉まで楽しめる施設が、「道の駅はが」です。観光いちご園の「芳賀いちご園」、町の農産物などを販売する「友遊はが」、公営温泉施設「ロマンの湯」からなる複合的な施設で、そば打ち体験教室やいちご祭りなど、季節に応じたイベントも開催し、町の情報発信を行っています。

友遊はが

芳賀温泉 ロマンの湯

日帰り温泉には珍しく、泉質の異なる2本の源泉があることが特色の天然温泉施設です。内湯は肌がつるつるになる「美人の湯」、露天風呂は保温効果が高く湯冷めをしない「あたたまりの湯」。地元の食材を使った食事処や個室などの施設も充実し、さまざまな使い方で利用できま



道の駅はがに隣接し、「とちひめ」「スカイベリー」などの品種を中心に、いちご狩りが楽しめます（30分間食べ放題・持ち帰りは有料）。

芳賀いちご園

●ロマンの碑

「海の幸」などの作品で有名な明治の天才画家・青木繁に縁の碑。青木繁は五行川左岸の福田たねの実家に滞在しつつ、同右岸に借りた一室で最後の公開作になった「わだつみのいろこの宮」の制作に没頭しました。これを記念し、両岸を結ぶ東高橋のたもとの公園に碑が建てられています。



▲ロマンの碑

川岸には「海の幸」のレリーフが

●天満宮

学問の神様・菅原道真公をご祭神に、1233年に創建された古社。道真公と牛にまつわる縁起・伝承が多く残り、平成21年に体長165センチの「臥牛」像が奉納されました。頭をなでれば賢くなり、体の痛むところをなでれば回復するといわれています。梅やあじさいの名所としても知られています。毎年2月・11月の春・秋のお祭りに太々神楽が奉納されています。



▲願掛け撫で牛

●延生地蔵尊（城興寺）



城興寺は地蔵信仰の総本山。境内には仏師・運慶の作と伝えられる木造のお地蔵様のほか、銅の地蔵菩薩像もあり、古来、安産・子育ての地蔵尊として信仰されてきたパワースポットです。

●穴不動

町の古墳群の最南端にある古墳で、現在は石室の一部に石仏の不動明王が祀られています。安産の仏として崇拝され、通称「穴不動」と呼ばれてきました。



●姥が池

年間を通じて清水が湧出する泉は聖地として古くから信仰を集め、日光開山の名僧・勝道上人の誕生の際、産湯に泉の霊水が使用されたとの言い伝えも残ります。一帯は縄文時代中期～後期の遺跡地でしたが、整備され、姥が池公園となりました。天然記念物の杉もあります。



●唐桶の溜（唐桶宗山公園）

1709年、一帯の灌漑のため、土地の豪農・岡田宗山が鬼怒川から水を引いて築いた用水溜。現代人も驚く大規模な土木事業で、その偉業を永く伝えるために導水遺跡碑が建てられています。現在は溜を中心に自然公園として整備されており、一年中、多くの人足を運ぶスポットとなっています。



導水遺跡碑▶

profile

●芳賀町

県南東部に位置する芳賀町は、1954年（昭和29年）に祖母井町・南高根沢村・水橋村の旧3町村が合併して誕生しました。

町は、そのほぼ中央を五行川と野元川が流れ、県内屈指の米どころとして知られる水田地帯を形成しています。同時に梨やいちごなどの果実、野菜類の栽培もさかんで、これも県内有数の生産地として知られてきました。神楽などの芸能や四季折々の祭など伝統文化も広く保存されており、自然と歴史の豊かさが色濃く感じる町です。

▶面積：70.16平方km
▶人口：15,903人（5,409世帯）